

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年5月19日

事業所名 オリーブまなびの家

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	未就学専用の部屋があり、スペースを確保できるようにしている	今後も1人ずつのスペースが確保ができるよう、利用曜日を調整等していく
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	現在は1対1で対応している	利用児が増えても、適切に行っていく
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	100%	0%	絵カードを用いてのタイムスケジュールや、タイムタイマー等用いている	幼児用の荷物入れ等、環境の構造化を行なっていく
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	幼児用の足踏み台や便座、机等子どもに合わせ対応している	子どもに応じてや、プログラムに応じて空間の使い方を今後も工夫していく
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	会議等で話し合っている	今後も継続し行っていく
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		今回初めての評価だったので、内容を踏まえ次年度の業務改善につなげていく
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	ホームページで公表している	今後も継続し行っていく
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0%	100%		第三者の評価は行っていません
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	定期的に参加している	今後は未就学児の発達の研修も行えるようにする
適切な支援の	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	児発管の指導のもと行っている	今後もチームで行っていく
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	JSI-R等を用いている	研修等でアセスメントツールの学習を行っていく必要がある
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%	チームでは話し合い選択している	ガイドラインの内容をしっかりと理解できるように、各職員にガイドラインの配布を行う
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%	同じ担当者が入るようになっている	担当職員以外にも療育の状況が分かるように、会議等で共有していく
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	児発管の指導のもとチームで行っている	今後も継続し行っていく
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	飽きないように、様々な療育教具を用いている	子どもの発達に応じ、これからも新しい教具を作成していく

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
提供	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	50%	50%	戸外遊びで順番に並ぶ等の活動ができるようにしている	利用人数が少ない為、集団活動ができていないが、地域の公園での戸外遊び等で工夫していく
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	朝の申し送りで行っている	今後も継続し行なっていく
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	支援終了後、引継ぎシートに記入し、振り返りの共有は翌朝の申し送りで行っている	児童発達担当職員以外も共有内容をしっかり把握していく
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	何のねらいでプログラムを実施したかも記入するようにし、検証しやすくしている	専門性を高める為、研修等に参加しより良い検証ができるように努める
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		利用開始まだ間のない方が多いが、計画に沿って実施していく
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	管理者が参加予定	まだ児発利用児に関しての会議には参加していないが、開催があれば管理者が参加する
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	50%	50%	通園施設とは連携していた	自治体をまたいでの連携が行えるように、働きかけていく
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0%	0%		該当児なし
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0%	0%		該当児なし
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	通園施設に訪問し情報共有を行っている	子ども園との連携がまだ取れていないので、今後も保護者を通じて相互理解に努める
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	0%	0%		該当児なし
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	児童発達支援センターに該当のある幼児さんにおいては、アドバイス頂ける機会があった	今後もアドバイス頂けるように関係を構築していく
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	50%	50%	園での交流はないが、地域の公園で幼稚園児と一緒に遊ぶ機会がある	今後も、地域社会の中で活動し自然に交流の機会が確保できるように努める
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	100%	0%	管理者が参加している	今後も継続し行っていく
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	お迎えのときや、連絡帳でお伝えしている	今後も継続し行っていく

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	0%	100%	現在ペアトレの実施は行っていないが、親子のマッサージでのスキンシップの図り方等違う形で提供している	ペアトレの実施予定は今のところないが、外部研修の案内や、違う形での家族支援のプログラムを行なっていく
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時に説明している	今後も継続し行なっていく
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%	管理者が行っている	今後も継続し行なっていく
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	定期的ではないが、適宜行っている	未就学児については、今後モニタリング以外に、定期的に相談できる日を設けていく
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	保護者会、子育てサロンを実施した	今後もコロナ禍の状況を見ながら、継続し行なっていく
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	契約時に説明しており、申し入れがあった場合は適宜管理者が対応している	今後も継続し行なっていく
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	ホームページやインスタグラムで発信している	今後も継続し行なっていく
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	同意書を頂き、写真の掲載等細かく確認している	雇用契約時だけでなく、定期的に職員にも周知していく
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	情報の整理や、保護者の説明時も専門用語ではなく分かりやすい言葉で伝えるようにしている	今後も継続し行なっていく
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	100%	0%	地域交流イベントや子育てサロンを開催した	今後は子育てサロンの定期的開催を目指す
非営	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	50%	50%	職員のみで実施した	マニュアルの見直しが必要なので、現在見直し中。保護者配布用のマニュアルを作成する
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	職員で地震津波を想定しての、避難訓練を実施した	職員のみでの避難訓練しか行えていないので、緊急事態に備え子どもとの避難訓練を実施する
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	50%	50%	契約時に確認している	予防接種の確認ができていなかったため、その項目を追加する
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0%	0%		該当児なし

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
市 時 等 の 対 応	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	ヒヤリハットではなく、「今日の気づき」とし、ヒヤリハットが出しやすい風土を作る工夫をしている。日々のヒヤリハットを記録に残し、申し送りで情報を共有し防止策を確認している	今後も継続し行なっていく。またヒヤリハットの視点を持てるように職員の資質の向上を図る為、研修の参加を行っていく
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	年に1度人権擁護研修を受けれるよう、研修の年間計画に組み込まれている	今後も継続し年1回の人権擁護研修を実施し、全職員が受講できるようにする
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	0%	0%	現在対象の児童がないので、説明は行っていない	今後対象児童が出た場合は、組織的に個別に応じた身体拘束の内容を話し合い、計画にも記載を行う

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。